



Soto-Zen Jyousenji

浄泉寺報

第 7 号

檀信徒の皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、喪中にて新年を迎えられましたご家庭には、本年がよい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

更に檀信徒の皆様には、日頃より浄泉寺の護持等に格別のご高配を賜っておりますこと、年頭にあたり改めて厚く御礼申し上げます。

昨年は、三月十一日に発生した東日本大震災の犠牲者の鎮魂祈る一年であり、また原発事故の影響に恐れおのく一年でもありました。日本各地で、あるいは世界のいくつもの地域で被災者支援活動がおこり、鎮魂の祈りが捧げられました。浄泉寺においても、宗門を通じて義援金の支出やら、本堂前のお賽銭箱の浄財(約十年分)もお届けいたしました。また、物故者のご供養も独自に、そして宗門のご供養にも何度か参加させていただきました。副住職は、実際に現地へボランティアとして参加しました。

昨年の十一月には被災地三県

のご寺院のご住職方のお話を聞く機会がありました。自らも被災しながら檀信徒や地域の支援活動、寺院の復興事業などまさに菩薩行に進進されておられ、感銘を受けました。心より一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、私事ではございますが昨年は、近隣のご寺院様、檀信徒の皆様の御助力をいただきまして大本山永平寺にて焼香師の大役を勤めさせていただきました。大変有難く、この感激を胸に今後とも精進いたす覚悟でございますので、よろしく願い申し上げます。

行事の方は、春の花まつり、お盆の万燈会、秋の観月会とを実施いたしました。講座等は、御詠歌、坐禅会、写経会を開いております。これらは、檀信徒の皆様と寺のコミュニケーションの場でもあり、是非多くの方々のご参加いただけますようご期待しております。

おわりに、ご家族様の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

住 職 合 掌

当面の行事等

1月 1日 檀信徒初詣

午前9時から午後4時まで

1月 8日～9日

浄泉寺本寺 大雄院(日立市)開山忌

1月14日 総代・世話人会 午前12時00分

2月15日 涅槃会(お釈迦様の忌日法会)

3月17日～23日 春彼岸会

4月8日 降誕会(お釈迦様の誕生日・花祭り)

午前10時 本堂 イベント実施(後日お知らせ)

※ お子様方をつれて、甘茶をかけにおいでください。夕方までお参りができます。お子様にはお菓子などを用意します。

浄泉寺の仏たち

浄泉寺のご本尊様は、先にお話ししましたが十一面観世音菩薩です。そのご本尊の左に菩提達磨大和尚、右に招宝七郎大権修利菩薩の尊像が祀られています。そこでこの二尊をご紹介します。

菩提達磨大和尚は、インドで生まれ、仏法を会得した後、中国へお釈迦様の正しい仏法を伝えるため海を渡りました。中国には、すでに仏教は伝わっていましたが、達磨が伝えたのは坐禅を中心として修行を行う「禅宗」という教えであり、それが広がり多くの弟子が生まれ発展していきました。



菩提達磨大和尚

やがて中国禅宗五家と言われる宗派ができ、その一つ「中国曹洞宗」の教えが道元禪師に

よって日本に伝えられました。曹洞宗では、菩提達磨大和尚を祖師と呼び、多くの曹洞宗寺院で、ご本尊様に次ぐ扱いでお祀りされています。一般に馴染みのある「ダルマさん」は、この達磨大和尚の坐禅をする姿をまねております。

次に大権修利菩薩ですが、もと唐の阿育王山の鎮守であり、右手を額にかざすのは遠く海を渡る人々の安全を見守っているからと言われています。鎮守様なので中国の帝王の服を着ています。道元禪師が中国から日本に帰る時、公開の安全と持ち帰る教えを守護するため船に身をひそめて共に海を渡ってきたという伝説があります。曹洞宗寺院では、お寺の地と伽藍を守護する方としてお祀りしております。本堂に入る機会があった時、是非お参りしてみてください。



招宝七郎大権修利菩薩

成道会

二月十五日の涅槃会、四月八日の降誕会、そして十二月八日の成道会を三仏忌としてお釈迦様の遺徳を讃えますことは寺報第三号でお話しいたしました。その時に涅槃会と降誕会は、詳しく書かせていただきました。しかし、成道会は、ずっと紙面を割けず後回しになっておりましたので今回成道会について少しお話しいたします。

成道とは成仏得道の意味で、成仏または成正覚ともいいます。

お釈迦さまは「人はせっかく生まれてきても、病気にもなり、年もとる。いつ死ぬかもわからない。皆が何の心配もなく、幸せに暮らせることはできないだろうか。」と思い巡らせ、この答えを求めて二十九歳の時に出家し、六年間の苦行を続けましたが、どうしても安らぎを得ることができませんでした。そこで苦行を離れる決意をし、疲れた身体を癒してから、菩提樹の期の下で坐禅瞑想をされたのです。



そして十二月八日、暁の明星を見て「われと大地の有情と同時に成道した」と悟りを開かれたことを宣言をされました。

しみから抜け出すことができました。このようにお釈迦さまは悟られました。

私は仏陀と同じくサンスクリット語のブッダからきた言葉です。ブッダは覚者（目覚めた人）という意味ですが、この成道をもって仏としての釈迦になられたのです。

そして一切衆生（生きとし生けるもの）の同時成道を宣言し、衆生に対して救いの光明をもたらされたのです。

有情とは非情（木石等）に対する語で、感情や意識など心の動きをもつ一切の生き物をいいます。

各寺院では毎年十二月八日を成道会と称し、報恩の法要を勤めます。また禅宗の本山や修行僧の多い寺院では「臘八摂心」といつて、十二月一日から八日まで昼夜坐禅修行に精進します。「報恩の坐」ともいいます。

また各地の寺院や仏教会等が合同して、托鉢行・募金活動などの報恩行事が行われます。

〈臘八とは〉

臘月八日のことで、臘月は陰暦十二月の異称。

昨年の万燈会（八月十五日） 尺八と琴



昨年の送り盆の夜、浄泉寺の境内や墓地には、竹筒に入られた数百の蠟燭が揺らめき、例年どおりご先祖様をお送りする幽玄な世界が演出されました。大勢のご先祖様をお送りする檀信徒の皆様や本格的な尺八の演奏と箏の音の共演を待つ人で本堂がいっぱいになりました。住職と副住職による檀信徒各家、参拝者各家のご先祖様をご供養する法要の後、演奏会が始まりました。

尺八の清野樹盟氏は、成田市在住で、八歳から琴古流尺八を始め、数々のコンクールで入賞し、東京芸術大学音楽部邦楽科を卒業し、現在国内だけでなく

海外においても精力的に活動をしている国内屈指の尺八奏者です。尺八の持つ本来の意義を歴史を含めてお話しいただくと共に、素晴らしい伝統の音色をご披露していただきました。また、近年テレビコマーシャルに出演された箏の海宝幸子さんとの共演では、朗々と流れる尺八の旋律に箏が伴奏をし、または主旋律を奏でながら、素晴らしい世界が浄泉寺本堂いっぱいに響き渡り、参加者一同大変感激をいたしました。尺八と箏の音に送られて各家のご先祖様方もさぞ満足して仏様の元に戻られたのではないかと思います。

どうぞ、今年もお楽しみの上でご参加ください。



昨年の観月会（十月二十二日） 尺八と詩吟



国コンクールでの優勝者の方などレコード会社にも所属されている方々で、それぞれ観月会にふさわしい詩を選んで、吟じてくださいました。秋の夜に朗々とした調べが本堂の内外に響き渡り、大勢の参加者は、中天に冴えわたる月と秋風に揺れる薄の穂を心に描きながら聴き入ったことでしょう。

詩と吟詠者は次のとおりでした。

菅原道真 作 九月十日

吟 吉岡一正氏

杜牧 作 山行

吟 山口 宝雪氏

李白 作 秋浦の歌

吟 塚越 玉翔氏

李白 作 静夜思



左から尺八の江川氏、吟の武島鳳珠氏、ナレーターの鈴木凌月氏



吟 星野 旺月氏

頼山陽 作 静御前

吟 武島 鳳珠氏

ナレーター 鈴木 凌月氏
 （以上出演順）

第三部は、再び尺八の江川氏による演奏です。第一部とは趣を変え、天城越え、涙そうそう、ハナミズキなど演歌やポップスといった楽しい曲を披露されました。

若干の宗教的行事も入れながら、約二時間の観月会は、大勢の参加者を得て今年も盛大に終了することができました。ご参加の皆さん、ご協力を頂いた皆さん、有難うございました。



表紙の寒山拾得図

かんざんじつとく

中国唐代中期の寒山と拾得の二人の高僧。

二人とも奇行が多く、詩人としても有名だが、その実在すら疑われることもある。拾得は天台山国清寺こくせいじの食事係をしていたが、近くの寒巖に隠れ住み乞食のような格好をした寒山と仲がよく、寺の残飯をとっておいては寒山に持たせてやったという。

また、この二人は文殊菩薩、普賢菩薩の生まれ変わりといわれる。画題としてもよく用いられ、その飄々と生き方が禅の境地にも繋がり、多くの禅寺で飾られている。

この掛け軸は、本堂右奥に古くから掛けられていた。江戸の絵画で狩野山雪の「寒山拾得図」に酷似しており、その不気味さグロテスクさ。にんまりとタレ目。寒山の経典を持つ親指の爪が鳥のくちばしのように長く伸びていていっそう不気味。それでも、ググッと惹かれてしまう。

浄泉寺墓苑のご案内



本堂の裏手に雛段状に配置された浄泉寺墓苑は、眺望がよく美しく整備された聖地です。

ご親族様や知り合いの方で墓所をお持ちでない方にご紹介ください。

永代使用料

◎ 一・八 m² 二十万円

◎ 二・一六 m² 二十五万円

◎ 二・七 m² 三十万円

◎ 四・三二 m² 五十万円

※年間管理費 一区画 三千元

その他低廉な価格での墓石工事のプロデュースも行っております。また、ご夫婦・個人向け永代供養墓もございます。さらにペットの納骨供養塔も、多くの方に利用されております。お問い合わせください。

各種講座等のご案内

◎ 梅花流（曹洞宗）御詠歌講

毎月第三土曜日

午後二時から午後四時まで

新しい講員さんも増えてます是非この機会に参加してみてください。

◎ 坐禅会

毎月第一日曜日

午前六時から午前七時まで

◎ 写経会

毎月第三日曜日

午後二時から午後四時まで

※これらの講座は、日時が変更となる場合がありますので、お問い合わせください。

やすらぎの

ご先祖の供養から

平成二十四年 年回表

一周 忌 平成二十三年
三 回 忌 平成二十二年
七 回 忌 平成十八年
十三 回 忌 平成十二年
十七 回 忌 平成八年
二十三 回 忌 昭和二年
二十五 回 忌 昭和十三年
二十七 回 忌 昭和六十一年
三十三 回 忌 昭和五十五年

仏教豆知識

曹洞宗のお仏壇とお供え

皆様のお宅のお仏壇には、お釈迦様あるいはお釈迦様と両祖様（高祖道元禪師様、大祖瑩山禪師様）のご尊像をお祀りしておりますか。ご先祖様の霊をお導きくださり、お守りくださるご本尊様等をお祀りし、ご先祖様のお位牌をお祀り、礼拝するのが正しいお仏壇のお祀りの仕方です。

また誰もが自分の中に持っている仏心に花を捧げるのです。りっぱな仏壇があっても、お花は枯れ、香炉はよごれ、仏飯もお水もないというお家がありますが、枯れっぱなしの花は、その家の人の気持ちがそのまま表れている、といえます。

「信は莊嚴から」といいます。

形は心のあらわれです。お供えは、供える人、見る人の気持ちをも、すがすがしくするので

す。

お仏壇は ご本尊を

おまつりする所です。

亡き御親や、祖父母等、

私たちの この身と心に

恩と縁のある尊霊を

おまつりする所です。

嬉しいにつけ、悲しいにつけ、

報告し、今もいますように、

おまつりする所です。

お仏壇は、家庭の中で

信仰の中心となる道場です。

家庭の和を支えてくれる

かなめの道場です。

ご本尊様等のお祀りをご希望の方は、ご相談をお受けいたします。